

村政懇談会（村松地区） 会議録

～地域の今年度の活動及び今後の課題について～

記録者：小林

○日 時 令和3年7月2日（金） 19時00分～20時40分

○場 所 村松コミュニティセンター 会議室1・2

○出席者 <村松地区> ※敬称略

照沼忠三（川根区自治会長），富永節夫（川根区副自治会長），坂内信行（照沼区自治会長），廣原勝廣（照沼区副自治会長），清水俊一（宿区自治会長），中村正美（宿区副自治会長），松野賢一（原子力機構箕輪区自治会長），吉田尚生（原子力機構箕輪区副自治会長），大内晴夫（地区社協会長），照沼恵子（地区社協副会長）

村松コミュニティセンター センター長鷹野，専門サポーター萩谷，記録者

計13名

<東海村>

山田村長，萩谷副村長，村民生活部 佐藤部長

地域づくり推進課 池田課長，三瓶課長補佐，大道係長，根本

計7名

○主な内容

1. 開会

【鷹野センター長】

お忙しい中，令和3年度村松地区村政懇談会に御参集いただき感謝申し上げます。本日の懇談会の進行を次第に沿って務める。本日の村政懇談会の様子は「広報とうかい」などに掲載を予定しており，写真撮影させていただくので御了承いただきたい。まず，今年度の村政懇談会の開催趣旨について，村民生活部地域づくり推進課課長から説明する。

2. 趣旨説明

【池田課長】

足元の悪い中お集まりいただき感謝申し上げます。これまでの村政懇談会は，規模が大きく，事前準備も含めて地区自治会の皆様の負担が大きかった。また，人数も多く，発言が参加者の一部に限られていた。今年度は，人数を絞り，対話・話し合いを重視して進めたい。個別の要望については，これまで通り自治会要望・村民提案・村民レター等でお伺いする。

地域に決めていただいたテーマについて地域と村が対話を通して一緒に考えていく場としたい。また，今後地域の皆様に話し合いを重ねていただくきっかけとしていただきたい。本日の懇談会だけではテーマに関しての答えが出るものではない。今後，このテーマについて，地域として何に取り組むことができるのか，村と一緒にやってやるものはあるか，議論を深めていただき結論を導いてほしい。村と一緒に協力してできるものが出れば今後の事業にも反映していきたい。

3. 村長あいさつ

【村長】

本日はお忙しい時間にお集まりいただき，また日頃から様々な地域活動に御尽力いただき感謝申し上げます。スタイルを変えての開催としては，ここは2カ所目である。1カ所目ではなかなか話し合いとはいかず，要望を聞くだけになった部分が多かった。要望だけを聞く場ではもったいない。この地域をどうしようかと考える場，意見交換ができると良い。継続課題もたくさんある。役場も

考えるが、地域でも考える場をもってもらいたい。今年度の村政懇談会は試行錯誤でやっている。本日は単位自治会を代表した方々に来ていただいたので、これまで活動してきた中で、変えたい部分や役場の考え方はどうなのかなどについて、思いを語っていただき、良い方向に変えていけるように考えていきたい。

どの地区も同じだが、高齢化・少子化の中で、地域活動に何が求められているのか、行政サービスだけでは全部をカバーできない。地域の力が必要である。それらを見つめ直すきっかけとしたい。皆様から御意見を伺いたい。

本日の村政懇談会には直接関係ないが、村内のコロナ対応状況について話をさせていただく。感染者はここ数日出ていない。ワクチン接種は、65歳以上は7月中に2回目まで終わる目途が立っている。しかし、16歳以上は村内3万2千人おり、ワクチンの供給も見えない中で苦勞している。ただ、混乱の無いように進めていきたい。ワクチンについての不明点はコールセンターや役場へ問い合わせする等、村の情報を確認してほしい。他の市町村と比べて遅いと思われるかもしれないが、急いで進めてトラブルにはしたくないので御理解いただきたい。

4. 出席者紹介（センター長）

5. 本日の進め方について（センター長）

本日の懇談会のテーマは「地域の今年度の活動及び今後の課題について」である。現在地域で行っている事業への参加者や役員の高齢化、事業の硬直化など様々な問題が出ている。今年度の活動や今後も含め、地域で活動していく中でどのようなことが一番の課題なのか、どういうことを大事にしたいと思っているのか、村と一緒に活動するという事なら具体的にどんなことがあるのか、対話を通して見つけていけたら良いと思う。

まず、村民生活部長から村松地区の自治会の状況及び村の取り組みなどについて説明する。その後、皆様方から1人3分程度テーマについてお聞かせいただき、その後村長から村の考え方を申し上げる。その後テーマに沿って意見交換を進める。今後に繋がる有意義な懇談会にしたい。

6. 村松地区の自治会の状況及び村の取り組みについて（村民生活部佐藤部長）

【佐藤部長】

- ・資料1「行政区別・年齢別の世帯数及び人口推移」：東海村全体で人口は増えているが、15歳未満が減って75歳以上が増えている。年齢別の人口の割合が変わっている。宿区は人口が減っている。高齢者は変わらず、15～64歳が減っている。照沼区も減少傾向で15～64歳、15歳未満が減っている。川根区は平成28年に15～64歳が増えていたが、原因は分からない。箕輪区は全体的に減っている。
- ・資料2「行政区別・年齢別の世帯数と人口」：村松地区だと宿区が一番人口が多い。平均年齢は宿区と照沼区が高い。高齢化率は照沼区が高い。
- ・資料3「自治会別高齢化率」：村内中心部は高齢化率が低く、端に行くほど上がっている。緑ヶ丘と南台は非常に高い。宿区と照沼区は、亀下や外宿と同じ位の高齢化率である。
- ・資料4「地域活動に対する村の支援のご紹介」：地域活動に対して、村が取り組んでいる支援を紹介する。村政懇談会や自治会長連絡会議など情報交換の場を設けている。活動に対する財政支援をしている。人的支援として各コミセンに職員を配置し各団体の運営をサポートしている。安心して活動できるためのサポートとして幅広く使えるふれあい保険に入っている。コミセンの施設管理と環境整備をしている。村と自治会で協働の事業の協定を締結し、クリーン作戦や広域避難訓練などを実施している。

- ・資料5「自治会運営を続けていくための全国を取組事例のご紹介」：自治会の共通した課題として、負担が多いため班を抜ける方が多く、新しく入ってくれない、という事がある。村でも取り組んでいるが加入促進や負担軽減になかなかつながらない。会員の皆様で話し合っで見直しを行うしかない。役員の負担軽減のために、役割分担やデジタル化、委託化など、全国での取り組み例を紹介する。
- ・資料6「単位自治会の主な活動」：村内各単位自治会でどのようなことをしているのか参考にしていきたい。

7. 地域住民からのテーマに対する考え

【川根区自治会長 照沼忠三】

- ・コロナの問題でなかなか踏み出せない。6月13日お田植祭・懇親会は規模を縮小・時間短縮、地区の代表者のみで実施した。
- ・夏の祭りをどうするか検討中。BBQを行って良いのか。ワクチンに期待していたがまだ効果が出ていない。どうしたら良いか明日集まって決める。色々悩んでいる。
- ・川根の道路、通学時の車の通行が危ない。

【川根区副自治会長 富永節夫】

- ・参加者がいつも同じで固定されている。ふれあいまつりもやらないとなると、区の皆さんが顔を合わせる機会がほとんどなくなる。他にも行事を行っているが、やる人はやるがやらない人はまったく興味がない。顔を合わせる機会もなく参加者も固定されると、顔と名前が一致しないというのが現実。
- ・昔はご不幸など今より人と顔を合わせる機会があったが、今はほとんどない。自治会運営も難しいのかなと思う。
- ・自治会に入るメリットは何だろう。逆に寄付は取られる。前は回覧版など必要だったが今は情報もネットで得られるし、行政サービスは自治会に入っていないなくても同じに受けられる。

【照沼区自治会長 坂内信行】

- ・神社の清掃、お田植祭は役員を絞って行った。
- ・6月に区内の一斉清掃で村道の草刈りを行った。後のゴミの収集が遅かったようでカラスに荒らされた。昨年と同様のことがあり役場に早目の収集を依頼していたのに、担当者が代わると引き継いでもらえないのか。
- ・7月3日に海岸道路の清掃を行う。毎年実施していて、役場にコンテナの準備等を依頼しているが、これも役場で話が分からなくなっていた。内部で調整してもらえないのか。
- ・照沼小学校の除草作業は8月の最終土曜日に例年通り実施する予定。
- ・春のクリーン作戦が中止になったが、この辺りは密にならないので、地域によっては行っても良いのではないかと。

【照沼区副自治会長 廣原勝廣】

- ・照沼の人口は変わっていないが、働き盛りが減っている。
- ・以前は定年後すぐ地域に入ってもらえたが、今は65歳でも働き、なかなか地域活動に参加してもらえない。少ない人口の中でこれからは役員のなり手がいない。
- ・5年先10年先の自治会運営自体が難しくなっていく。考えなければならないが、良い案が浮かばない。

【宿区自治会長 清水俊一】

- ・宿区自治会で6月に一斉清掃を行っていたが、コロナの状況を見ながら、今年はどうするか考えている。
- ・親善スポーツ大会等の大きな事業が実施できないでいる。数年間大きな行事が実施できない状況で、事業の段取りを引き継いでいくのが難しくなっている。
- ・天神山緑地保全について、役場にも下草刈りなどをやってもらっているが、少人数でなかなかきれいにならないので、細浦地区などと合わせて大々的にやっても良いのではないかと考えている。

【宿区副自治会長 中村正美】

- ・私の班は以前の半分の世帯になってしまった。高齢にもなっている。80歳を過ぎると班長をしなくても良いとしていることもあり班長が短いスパンで回ってくる。役員の話もあつたが、回していくのも大変だと感じる。
- ・まつりや三世代交流会を行っているが、コロナの関係で1、2年実施しないとその間に役員も変わってしまうので、ノウハウ的なものやせつかく積み上げてきたものが分からなくなって、その先一からやり直すことになってしまうのではないかと危惧している。
- ・朝、国道245号の交差点を避けるために抜けてくる車があり、通学時の児童が危ない。

【原子力機構箕輪区自治会長 松野賢一】

- ・先週無事草刈りができた。
- ・世帯数が減っている。一つの棟に4、5世帯しかいない。
- ・まつりは一昨年やめた。現状に合ったやり方で進めていくのが一番良いと考える。
- ・去年も炊き出し訓練を行ったが、一部縮小して行ったためやり方が分からない所がある。物を配って良いのか等、検討しながら少し時期を遅らせて実施する予定である。
- ・前向きに地域行事に参加したい。地域の皆さんと一緒に協力して活動していきたい。

【原子力機構箕輪区副自治会長 吉田尚生】

- ・クリスマス会などのいろいろなイベントが、世帯数が減っているためになくなっていく。
- ・社宅の今後の問題もあり、箕輪区自治会自体がなくなってしまうかもしれない。いろいろしまっていく必要があるのかもしれない。

【村松地区社協会長 大内晴夫】

- ・今年度役員改選があり新しい体制でスタートした。16名中11名が新任。役員の手不足ということはなく各地区から選出していただきスムーズにスタートできた。経験不足からの不安はあるが、早速5月に役員会を行った。
- ・8月に根本薬局の薬剤師を講師に迎えて、薬の正しい服用についての研修会を行う。コロナ感染についていばらき診療所のドクターに依頼したが、ワクチン接種が最優先ということでなかなかできなかった。
- ・9月に敬老会の実施を予定している。一堂に会さず、約270名の対象者へお祝い品を届ける。
- ・11月に5回目の開催となるリフレッシュ事業を予定している。村社協の協力をいただき、バスで県外へ出向く研修会。これは高齢者を支える協力員が対象の事業。
- ・高齢者対象の健康食事は今年度前半の開催を見送った。10月以降どうするかは8月末までに決める。
- ・次世代を担う協力員の取り込みが課題。今高齢者を支えている協力員はいつか支えられる側に

なるので今から若手リーダーの育成が必要。

【村松地区社協副会長 照沼恵子】

- ・役員のなり手がなかなかいない中だが、役員自体はすんなり決まった。この役員が変わった時点がいろいろなことを変える時期かなと思った。2008年の在宅ボランティアの時代からずっと活動している役員がいるため、役員が高齢化している。若い方へスライドしていかない。長くやっている方の意見が強くなってしまい良くないところがあった。変える機会でもある。少しずつ変えて皆が楽しんでできるような良い方向になると良い。
- ・去年の敬老会は皆で一堂に会することはできなくなったが、方法を考えて、マスクを作って配布した。安否確認にもつながった。地域の方も皆で会う機会が無くなってしまい、できないことも多くなってしまったが、交流を図りながら楽しめることを見つけていきたい。

【池田課長】

皆様から活動報告や今後の課題について、たくさんの御意見をいただいた。高齢化による役員の担い手不足、自治会に入るメリットを説明できない、解決策が見えてこない、役員も次世代へ若返りを考えなければならない、などの課題が見えてきた。

8. 村長からのテーマに対する考え

【村長】

- ・7、8月の事業再開は難しい。やりたいと思っても、心配する意見が出る。秋以降も状況次第である。感染対策を徹底すれば地方は大丈夫なのではないかとも思う。ただ、祭りは飲食を伴い、飲食のないお祭りを実施できるかという点もよく考えなければならない。人が集まることを避けるなら、草刈り・清掃活動、防災訓練などを行うことに理解を得やすい。飲食を伴うものの再開は難しいのかなと思う。村がイベントを始めることでやり方をみせる必要もあるのかもしれない。
- ・役員のなり手不足は、退職年齢も上がっているので、現職でもできるようなことを考えていく必要がある。そのためには全体のボリュームや、一人一人の役割を減らすなど事業の見直しや仕分けが必要となる。
- ・地区自治会制度は、村が皆様をお願いして始めたもので、部会まで作ってもらったが、それが負担になっている。今後は一度リセットし、6地区同じにすることもないと考える。今までと同じことをやるのは限界なので、地区自治会、単位自治会のどちらでやった方が良いのかなども含め、事業の見直しやそのための話し合いの場が必要と考える。
- ・ごみ、通勤時の抜け道、通学路の安全の件は対応したい。

9. 参加者同士の意見交換（フリートーク）

【センター長】

- ・皆様の意見と村長の意見を伺った。ネガティブな縮小気味の話が多かったようだがこれからは地域の良いところなどを聞きたい。

【照沼区自治会長 坂内信行】

- ・照沼の良い所はまとまりがあるところである。
- ・要望になってしまうが、国道245号下の村道の草刈りは自分たちでできるが、上の方は危なくてできない。役場でやってもらえないか。

⇒該当箇所は大宮土木の所管かと思う。(村長)

【照沼区副自治会長 廣原勝廣】

- ・如意輪寺の所、蛍光灯は点いているが雨の日は暗いし、壁が灰色で落書きもされている。そこを子どもが通る。せめて壁を明るい色にしてほしい。
- ・通学と通勤時間が重なる。隧道を上ったところが危ない。通行止めにはできないのだろうがとても危ないと感じている。

⇒抜け道として使っている可能性のある会社へ、地元から危ないという意見が出ているという事を提言し、社員へ注意喚起してもらうことはできるだろう。(村長)

【池田課長】

- ・通学路の清掃など、小学校に関する取組みが照沼区は特徴的であると思う。校庭の除草作業など、どのような経緯で行っているのか。

⇒照沼小学校区の各区が交代で行っていた。たまたま去年は照沼だけだった。(照沼区自治会長 坂内信行)

⇒自治会の加入率が下がっている中、行事への参加率も悪くなっていると思うが、子ども関連の事業への若い人の参加率はどうか。(池田課長)

⇒PTA も参加する。照沼だけだが、高学年の子どもも参加している。去年は100数名だった。(照沼区自治会長 坂内信行)

⇒照沼小はPTA だけでの活動が難しく、地域に助けられている。父兄だけではできないことを地域の方が積極的に協力してくれて地域とつながっている。歴代の校長も感謝している。(村長)

⇒数十年前から校庭を利用して照沼区民のレクリエーション大会を行ってきた。大人が使うのだから、子どもに手本を示そう、と先代から行ってきた。良い所を見せることや学校をきれいにすることで地域の親睦も図れていた。ただ時代が変わればそこまでやることに疑問をかんじるという意見も出てくる。(照沼区副自治会長 廣原勝廣)

【池田課長】

- ・自治会に入るメリットがない、などの話が出た。川根区は自治会加入が58%くらいと高いが、地域の人へ自治会加入のメリットなどについて説明する機会はあるか。

⇒昔から住んでいる人がそのままいるので加入率が高いままなのだろう。メリットは難しい。自治会に入ると何かやられるのではないかという印象より、行事に参加すると楽しいと思ってもらえるなど、自治会へ入りたいと思ってもらえるのが理想である。(川根区自治会長 照沼忠三)

⇒私の住んでいる船場区は、自治会の他にも、お寺や神社の氏子等でも地域の人とつながりがある。これらはもともと地域を自分たちでどうするかで始まったものである。昔からのつながりがない所はメリット論になってしまうのかもしれない。(副村長)

【原子力機構箕輪区副自治会長 吉田尚生】

- ・3年前にこの地域に来て、自発的というより、周りの雰囲気から自治会へは参加するものであると思ってきた。自発的な参加ではなかったが、防災に関する情報を知れたことは良かった。食料の備蓄状況等を自分で知ることができたのはメリットだと思う。防災などつなげて自治会の良さをアピールできたら良いのではないか。

⇒災害があると、自治会に入っていて良かったと思う。自主防災組織に入っていない人、もとも

と興味のない人に入ってもらるのが難しい。(村長)

【村松地区社協副会長 照沼恵子】

- ・自治会に入った方が良い、というメリットをうまくは言えないが、人とのつながり、コミュニケーションが希薄になっているから、不自由だったり面倒くさいことが少しくらいあって良いと思う。少しの不自由さがないと良い環境はできない。
- ・民生委員をしているが、自治会に入っていない人は情報が得られず不安らしい。半強制位の方がつながりができて良い。
- ・箕輪の方はこの地区で貴重な存在である。仕方なしにでもやっていただいていることで活性化につながっている。村でも率先して入ってもらうような手立てができないのか。

【原子力機構箕輪区自治会長 松野賢一】

- ・ここに住み始まって子ども会があった頃からお世話になって、その頃やってもらったことを今度はやらないと、という感じでやっている。

【副村長】

- ・私の班では、高齢になって一人暮らしになると、自治会を抜けさせてほしい、という人が出てくる。役割を免除して残ってもらっている。入れる工夫も必要、抜けていく人を防ぐ工夫も必要。一人暮らしの高齢者が脱会するのを防ぎ自治会にとどめて見守ることも必要。

【村松地区社協会長 大内晴夫】

- ・社協の活動としては見守りをしているが、高齢者といっても、一部の人の見守りなので、枠を広げていくことも今後検討してやっていきたい。

【宿区自治会長 清水俊一】

- ・見守りは民生委員がやっている。自治会の規模が大きいと、意見の交換や独り暮らし等の情報の共有が難しい。

⇒個人情報の関係で民生委員と自治会間で情報共有はできない。(川根区自治会長 照沼忠三)

⇒地区社協で75歳以上へプレゼントをしたいから個人情報を利用したい、ということがあった。扱い要注意で、民生委員を通して高齢者状況調査の情報はもらった。村で地区社協や自治会へ開示できないのか。(村松地区社協副会長 照沼恵子)

⇒要配慮者などは災援プランの協定を結べば情報をもらえる。(川根区自治会長 照沼忠三)

⇒要配慮者・安心サポーターなど、本人の了解を得た上での情報共有はしているが、75歳以上全員分の共有等は難しい。自治会が持っている会員名簿の共有ならできるかもしれないが、自治会を抜けた人の情報まではカバーできない。個人情報の取扱いは非常に厳しい。(村長)

⇒一昔前なら、雨が降ってきて近所の家洗濯物取り込んでおいた、ということもあったが、今そんなことをしたら逆に怒られてしまう時代である。(川根区自治会長 照沼忠三)

⇒権利と義務は明確で、より根拠を問われる時代となった。曖昧にしておくということが通用しない。以前は煩わしさがあって関係が成り立っていたが、今は効率性を重視するようになり、振れ幅がなくなった。動きようがない。社会のシステムがそうってきたのでそれを行政が変えるのは難しい。このシステムに関して地域の中で話し合いができるかと言ったら難しくなっていると思う。(村長)

【池田課長】

地域活動のあり方については行政も手探りで解決策を探っている。自治会や地区社協は地域住民が支え合いながら明るく楽しいまちづくりを行っていくために重要な団体である。少子高齢化の中で色々な課題があることが分かった。今日の議事録を後日配付させていただくので、それらをもとに、悩みも含めて、地域で話し合いを重ねて結論のようなものを出していただきたい。

【村長】

コロナ禍の中で活動をどうするか皆困っている。どのタイミングでどういう活動から再開するか、悩みが多いと思うので、悩んだ時には地域づくり推進課に相談してほしい。村でもどんな対応ができるか考えてみる。できるものから始めたいと思う。実際にやるのは皆様なので御理解いただきながら少しずつ活動を再開できるようにし、やりながら来年度以降もどんな活動を続けていくのか考えてもらいたい。地域づくり推進課に相談してくれれば私も聞いて一緒に考える。

10. 閉会